

# 会 議 録

## 1 会議名

平成30年度上越地域若年者自立支援ネットワーク会議

## 2 議題（公開・非公開の別）

- (1) 上越地域若者サポートステーション平成29年度事業報告について（公開）
- (2) 上越地域若者サポートステーション平成30年度実施計画について（公開）
- (3) 上越地域若者サポートステーションと関係機関の今後の連携について（公開）
- (4) その他

## 3 開催日時

平成30年8月1日（水）午後2時から午後3時25分まで

## 4 開催場所

上越市役所 401会議室

## 5 傍聴人の数

0人

## 6 非公開の理由

—

## 7 出席者氏名（傍聴人を除く。敬称略）

- ・会 員：林修一、高橋利彦、佐藤大介、宮崎雅彦、藤田健男、漆間和美、小林泰心、渡部准次、春日健一、五十嵐透子、岩尾秀海、山崎幸恵、竹内隆志、竹田幸則、小野孝、宮路省平、宮崎英紀
- ・事務局：上越市産業振興課 水澤副課長、金融・労働係 近藤係長、神林主事  
上越地域若者サポートステーション 若林総括コーディネーター

## 8 発言の内容

議題(1) 上越地域若者サポートステーション平成29年度事業報告について

※事務局より資料1に基づき一括説明

○質疑・意見等

質問・意見なし

議題(2) 上越地域若者サポートステーション平成 30 年度実施計画について

議題(3) 上越地域若者サポートステーションと関係機関の今後の連携について

※事務局より議題(2)と(3)は関係するので、あわせて資料No.2、3に基づき一括説明

○質疑・意見等

(NPO 法人えちご若者元気塾：藤田会員)

- ・サポステが6年目に入ったので、過去5年間の総括をしてほしい。

(事務局：若林総括)

- ・総括するデータは持っていないが、全国的な傾向は、就職率や登録数が非常に落ちている。理由は、景気が良くなり、上越管内でも有効求人倍率が高くなっていることで、比較的就職しやすい人は、サポステに来なくてもハローワークや自力で就職できることから、どちらかという就職にはまだステップを要するような人に限られる傾向にあるためである。全国データでは、登録してから就職までの期間が3か月未満は5割弱、3か月以上6か月未満は23%程度であり、7割程度が半年以内に就職している。また、6か月以上1年未満では18.6%となっており、9割近くの人が就職している一方で、3年以上就職できない人もいる。
- ・内容も含めた総括について、今後検討していきたい。

(公益財団法人新潟県雇用環境整備財団：小林会員)

- ・少し補足をすると、サポステ事業の内容や制度が変わってきているので、5年分の総括はやってみないと資料にできるかわからない。例えば、進路決定について、就職すればよかったものが平成27年度からは「雇用保険の被保険者となり得るもの」に限定され、さらに平成29年度からは「就職の該当者を書類で確認した場合に限られる」など基準が変わってきている。

(NPO 法人えちご若者元気塾：藤田会員)

- ・就職率が100%ではないが、就職できなかった人についてその後のフォローは行っているのか。例えば、平成29年度の新規登録者は49人であり、就職できたのは28人であったが、残りの21人は今年度も支援しているのか。

(事務局：若林総括)

- ・就職できなかった人の登録は打ち切らないが、6か月間を経過した時点で、相談が全くない場合は打ち切る。相談を続けている状態であれば、何年目でも支援を続けているが、21人の状況についてのデータを現在持っていない。

(NPO 法人えちご若者元気塾：藤田会員)

- ・メールや電話で相談してきた人がどれくらい来所につながっているのか。また、就職した人のフォローはしているのか。

(事務局：若林総括)

- ・電話での相談の多くは、相談したいという思いが強いので、やり取りをしていくうちに、来所に結び付いているケースは多い。
- ・就職が決まった後に、非正規から正規への転換支援等の職場定着型・ステップアップ支援を行っているほか、就職し6か月経過した時点での定着率を把握するためアンケートを実施している。また、プログラムの中には、就職した人の集まるイベントも企画している。

(NPO 法人えちご若者元気塾：藤田会員)

- ・一番知りたいのは、サポステが始まってから6年経つが、数年来、相談に来ている人がいるのか。

(障害者就業・生活支援センターさくら：宮崎会員)

- ・未登録と仮登録の違いを教えてほしい。また、今年度の就職率が3か月間で31%となっており、目標の60%に達していないが、これから9か月間はどのあたりの施策を中心にやっていくのか教えてほしい。

(事務局：若林総括)

- ・昨年度まで仮登録という制度があり、相談に来た人からサポステで話を聞いて登録に該当するか検討し、ハローワークと協議のうえ決めていたが、今年度からは基本的にハローワークへの事前確認は不要となった。未登録は、支援対象にならない人である。例えば、短時間でも働いている人は対象外だが、悩みがあって、プログラムを受けたいという人は受け入れている。
- ・就職率を上げるために、まずはハローワークや関係団体との連携を強化する。今年度から個人情報の管理が一層厳しくなったので、本人から同意を得たうえで、ハローワ

ークに行けない人の情報共有を行う。また、障害や生活保護の対象者も来るので、「障害者就業・生活支援センターさくら」を含め、広範な支援機関と連携して支援を行い、福祉交流プラザ内の機関と同席して相談者に対応するなどしている。このほか、有効な広報活動や職場体験受入企業の開拓方法を検討しながら、更なる強化を行うとともに、支援スタッフの専門性の向上を目指し研修等へ積極的に参加する。

(事務局)

- ・年に1度の会議なので、これまで説明のあった平成29年度の事業報告、平成30年度の計画、今後の連携等について、皆様から一言ずつお願いしたい。

(上越公共職業安定所：林会員)

- ・今年度は実務担当者会議が早い時期に行われたので、それを踏まえて日々の業務を行っている。細かなところは密に連絡を取りながら進めており、利用者が就職や目指すところに到達できるように協力していきたい。

(上越公共職業安定所妙高出張所：高橋会員)

- ・登録や来所の数が減っており、窓口の負担は減っている一方で、メンタルや家庭の事情で就職が難しい人が目立ってきた。出張相談会を妙高市でも月に1回開催してもらえることにより、紹介しやすくなったので、サポステへの送り出しを強化していければと考えている。

(糸魚川公共職業安定所：佐藤会員)

- ・妙高にも関連するが、全体の求職者は減少傾向であるが、悩みを抱え無業期間が長くなっている人が非常に目立つ状況となっている。その関係で、出張相談会への再来相談が目立ち、上越市は遠いので行けないという人もいるので出張相談会はありがたい。これまではそのような事例がなかったが、ハローワーク、サポステ、相談者の三者での相談も含めて今後の取り組みについて検討を進めていく必要があると考えている。

(障害者就業・生活支援センターさくら：宮崎会員)

- ・様々な機関と連携していく事が大切であり、当方でもハローワークと連携して9月に障害者雇用の事例発表を大島農機(株)と(株)直江津油脂にしてもらった後にグループワークを考えている。また、11月にも全国的に有名な無印良品の方から講演してもらうことで、雇用について理解を深めてもらいたいと考えている。

(NPO 法人えちご若者元気塾：藤田会員)

- ・職場体験を受け入れてくれる企業は増えたのか。

(事務局：若林総括)

- ・20社くらい訪問してお願いしているが、受け入れてくれるという即答は1社のみ。

(NPO 法人えちご若者元気塾：藤田会員)

- ・こちらで把握している、協力してくれそうな企業をサポステに紹介するので、そちらで訪問してもらえればと思う。

(上越パーソナル・サポート・センター：漆間会員)

- ・今年度は1人サポステに紹介したが、当センターに来る人は精神障害者の手帳を取得する人や、生活困窮者なので、サポステの事業を紹介しても訓練まで待ってられない。また、ハローワークの求人案件と同じものをもっているが、ハードルが低くなっているので、良ければうちの事業も利用してもらえればと思う。

(上越商工会議所：渡部会員)

- ・約2,100事業所ある会員のうち、多くは障害者やニートを雇用しており、我々ができるのは周知活動であるので、関係機関と連携しながら進めていければと思う。

(上越商工会連絡協議会：春日会員)

- ・上越市の13区と妙高市、糸魚川市の商工会の会員は、家族経営や小規模事業者が多く、9割くらいは5人以下の事業所なので、紹介するのはなかなか難しいが、情報提供を行っていききたい。

(上越教育大学：五十嵐会員)

- ・新潟市のサポステはどんな相談も受けているが、上越市は相談員が限られており、そこまで広げることにはできない中で、就労支援に限定するのか、どこまで拡大するのか、相談数、新規登録も確保し、働く状態に持っていき、フォローアップもやらなければならず、就労への一貫したサポートが必要な中で立ち位置をどうするか、地域性も考慮して決める必要がある。
- ・また、難しい課題として、医療との連携がしっくりきていないこと、ここ何年かのうちに厚生労働省の方針が変わり学校との連携をしなくてよくなったが連携する必要がある中で、どうしてもマンパワーに限界があり、円滑に進まないことがある。

- ・ネットワーク会議が始まった頃は、中学校の先生も来ていたが、現在は中学校で進学しなくなった人へのサポートは抜けている。この会議の会員として南城高校の先生が来ているが、サポステの利用者にはこの地域のトップ校といわれる進学校の生徒も少なからずいる。このことも踏まえ、早いうちにサポステの活動内容の情報提供を行うことと、長期的な就労支援ということで教育機関との連携も考えていかなければいけない。

(新潟県上越地域振興局健康福祉環境部：岩尾会員)

- ・直接的な連携はないと思うが、関係機関と連携する部分があれば協力していきたい。

(新潟県産業労働観光部労政雇用課：山崎会員)

- ・県は二つの就労支援事業を昨年度から引き続きサポステに委託という形で行っている。
- ・一つ目は、市町村や支援機関などを対象としたセミナーを開催して参加者同士で情報交換してもらっている。もう一つは、サポステが行っている職場体験の受入企業へ協力費を補助している。先ほども少し話が出たが、受入企業を新たに開拓しているということなので、皆様からも協力費が出るということを周知してほしい。
- ・そのほか、働くにあたっての心構え等を掲載した「若者のための労働ハンドブック」を作成し、県内の高校3年生全員に配布している。毎年7月に配布しており、様々な機関からもっと欲しいという連絡が来て品薄になっているが、高校生に限らずサポステの利用者等に対しても使用できると思うので活用してほしい。中には就職への悩み、不安の相談先としてサポステも掲載している。

(新潟県上越地域振興局企画振興部：竹内会員)

- ・上越労働相談所に来るのは、基本的に就業している人からの相談がほとんどであり、サポステに紹介した案件はないが、今後、若者の就職に関する相談があったらサポステに紹介したい。

(妙高市観光商工課：竹田会員)

- ・当市も障害者の就職は福祉介護課、ニートや引きこもりの対応は子ども教育課がそれぞれ担当しており、連携が少し足りないと感じたので、今回出席して得たサポステの取組についても情報を共有したいと思う。

(糸魚川市産業部商工観光課企業支援室：宮路会員)

- ・市の広報紙への掲載や相談会の会場支援を行っており、直接的な支援はあまりないが、

特に最近では退職したまま無業者になるケースが見られるので、退職者対策については上越地域振興局と連携した取り組みを行っていきたい。また、ワーク・ライフ・バランス推進のため、「ピンクTシャツプロジェクト」を行っており、誰もが働きやすい環境づくりに取り組むことで若年者が無業者にならないように支援していきたい。妙高市も当市も若年者自立支援ネットワーク会議を頼りにしているので、今後も連携していきたいと思っている。

## 9 問合せ先

上越市産業観光部産業振興課 TEL：025-526-5111

E-mail：[sangyou@city.joetsu.lg.jp](mailto:sangyou@city.joetsu.lg.jp)

## 10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。